

平成25年度土曜日の公開授業研究事業実施報告書（中間まとめ）

学校番号	40	学校名	県立静岡高等学校
対象課程・学科・学年		全日制の課程・普通科・全学年	

1 研究のねらい

- (1) 生徒の負担に配慮した実施日の適切な設定
- (2) 土曜授業の効果的な実施
- (3) 職員の勤務時間管理に配慮した校内体制の在り方

2 研究の概要

(1) 方策

前年度研究事業で実施した生徒アンケートの結果などを踏まえ、本年度の行事予定の中で月2回の実施日程を決定した。

○半日授業日とする土曜オープンスクールを年間17回実施する。

- ・年間行事予定の検討
- ・月2回程度の実施、4単位×17＝68時間（2単位相当）の授業日数・時数を確保
- ・生徒の公欠を極力少なくする授業日の設定
- ・生徒の疲労感を増長しないように、日曜日に全員受験の模試が予定されている場合は避ける。
- ・土曜オープンスクールの授業を組み入れた適切な時間割の編成

○中学生・保護者・地域等にかかれた学校づくりを目的に公開授業を行う。

○生徒の振替休業日の設定方法については、土曜日を4時間の授業日として、その振替を予め授業日としてある他の日の4時間とする方法とする。⇒適切な振替休業日の設定

○事前に年間行事予定として土曜オープンスクールの実施日を在校生及び保護者に示す。
また、学校ホームページに掲載して地域や中学生及びその保護者に公開する。

(2) 検証方法

研究報告に当たっては、実施日の生徒の公欠者数や学校関係者（生徒及び教員、公開授業参加者、学校評議員など）のアンケート結果や意見などを参考にする。

3 実施日程及び内容

回	実施日程	生徒の振替休業日	実施内容
1	4月13日（土）	5月21日（火）午後	地域や保護者にかかれた学校づくりを目的に行う公開授業 *は中学生への公開日として体験入学の代替とする（10回）。
2	4月27日（土）	5月22日（水）午後	
3	*5月11日（土）	7月9日（火）午後	
4	*6月8日（土）	7月10日（水）午後	
5	*6月22日（土）	7月23日（火）	
6	7月6日（土）	7月24日（水）午後	
7	9月7日（土）	10月15日（火）午後	
8	*9月21日（土）	10月16日（水）午後	
9	*10月5日（土）	11月26日（火）午後/2年、12月4日（水）午後/1、3年	
10	*10月19日（土）	11月27日（水）午後/2年、12月5日（木）午後/1、3年	
11	*11月2日（土）	12月20日（金）	

12	11月16日 (土)	12月24日 (火) 午後	
13	*12月14日 (土)	1月17日 (金) 午後	
14	*1月11日 (土)	2月5日 (水) 午後	
15	*1月25日 (土)	3月4日 (火)	
16	2月8日 (土)	3月13日 (木)	
17	2月15日 (土)	3月19日 (水)	

4 実施上留意した事項

- ・土曜授業を組み入れた適切な時間割の編成に留意した。
- ・土曜授業を実施するA週と実施しないB週の教科配分に偏りのないように時間割を検討した。また、自習になることも想定されるため、情報、体育以外の全教科を配置した。
- ・公式試合の組まれる可能性の少ない時期に実施日を設定することで、公欠を少なくしていくとともに、時間割作成の際に、土曜日に単位数の少ない科目を極力入れないようにした（実際には特定クラスの地学や現社などが時間割に組まざるをえなく、完全には不可能であった。）。

5 研究の成果

(1) 授業時間の確保

年間17回（月2回程度）の土曜授業の実施により、4単位×17＝68時間（2単位相当）の授業日数・時数を確保できた。

(2) 生徒の学習・生活リズムの確立

ア 学校の考察

土曜日を月2回程度授業日とすることにより、平日のいわゆる垂れ下がり授業を最小限にすること、放課後の有効活用が可能になり平日の部活動が節度ある時間帯に終了することとなり、生徒の「授業・放課後の部活動・家庭学習」の各時間を確保しやすくなっている。このことにより、生活リズムを確立させる指導がしやすくなっている。また、土曜日の午後に学校図書館を開放することによって、土曜授業の午後に図書館で学習する生徒も見られる。

イ 生徒・教員対象アンケートの分析

生徒・教員へのアンケートによれば、肯定的回答（かなり当てはまる、わりと当てはまる）の割合は、概ね次のとおりである。

（ ）内の％は、対前年度との比較

	質問項目	生徒の回答	教職員の回答
1	学習・授業時間の確保	48% (-4%)	88% (-2%)
2	生活・学習のリズム作り	39% (-3%)	75% (+2%)
3	土曜授業の午後はゆったり	24% (-6%)	44% (-5%)
4	平日の放課後にゆとり	82% (-1%)	63% (-1%)
5	土曜授業の公欠が学習・授業の妨げになる	30%	81% (-4%)
6	生徒(教員)の心身の疲労の蓄積こたえている	64% (+1%)	35% (+7%)
7	週休日の部活動が制約	27%	42% (-6%)
8	通塾や趣味等、自由に使える時間が制約	63% (+5%)	—
9	週休日が変則的になり、心身のリフレッシュができない	—	46% (-2%)
10	勤務の振替が取りにくい	—	83% (-2%)

(3) 開かれた学校づくり

年間17回の土曜授業のすべてを公開としているが、とくに学校概要の説明会を実施するため、中学生及びその保護者等に向けて公開日として広報（学校ホームページに掲載するとともに、学区及び隣接学区の入学実績のある中学校へ通知）する日を年間10回設定した。中学生及びその保護者等の参観は、1,200人で、昨年度とほぼ同数であった。

平成24年度から、公開の説明時に放送部の生徒が作成した学校紹介DVDを流したり、学校図書館を開放したりしており、好評である。また、校内案内掲示や歓迎の垂れ幕等を準備して公開にあたった。従来から実施している参観者へのアンケートも、毎回教員全員にフィードバックしている。授業内容やこのような形でのオープンスクールについては概ね肯定的な回答を得ているが、授業内容や生徒の服装など、指導上の参考になる意見も多かった。

6 実施上の課題及び解決策等

(1) 実施上の課題

ア 実施日の課題

従来から土曜授業実施日と生徒の振替日をできるだけ近く設定するよう努めてきたが、本研究事業の指定を受けることにより土曜授業の実施回数を11回から17回に増やしたため、設定すべき振替日も増加した。実施日と振替日の間が長くなってしまったため、生徒にとっては振替の感覚は現実的には乏しいと思われる。

イ 生徒の負担軽減

今年度も、オープンスクール実施の土曜日と部活動の公式試合との重なりによって、一部の運動部の生徒が公欠となる日が数回ある現状は変わっていない。校内における対応（例えば、土曜日に復習・演習中心の授業内容にすること等）を検討してきたが、なかなか決定的な解決策に結び付いていないのが実態であった（下表参照）。

年度	土曜授業回数	公欠者の人数				
		総数	1回あたりの平均	1回1学級あたりの平均	最多の日	最多の日1学級あたりの平均
19	11	614	55.8	2.3	133 (1/12)	5.5
20	11	680	61.8	2.6	196 (5/10)	8.2
21	11	405	36.8	1.5	122 (1/9)	5.1
22	11	501	45.5	1.9	92 (5/1)	3.8
23	17	964	56.7	2.4	151 (5/7)	6.3
24	17	676	39.8	1.7	97 (5/12)	4.0
25	17	745	43.8	1.8	191 (9/21)	8.0

本年度は高体連等の公式試合が5/11と9/21に集中したため、26年度の当該日は実施日から外し、5月と9月は各一回の開催とする予定である。

なお、生徒アンケートの自由記述に、公欠の授業内容の補充に関する要望が、特に低学年を中心にあった。教員へのアンケート結果において、演習に切り替えているとする記述は1名で、補充に関する課題への対応が望まれる。公欠については、部活動に判断を任せている部分を変更して、公式試合に限ったり、個人競技は原則出場選手だけとするなどを検討する必要がある。

ウ 教員の負担軽減

土曜に勤務を命じる教員は、非常勤、再任用の教員以外、ほぼ全員である。振替方法は基本的には昨年度までと変更ないが、振り替えた時間帯に実際に休めないということ

を無くすよう、昨年度からの(ア)～(ウ)の工夫をした。それにもかかわらず勤務の振替をとりづらいと回答する教員が83%にのぼっているため、体制上の更なる改善とともに教員の意識改革を求める必要がある。

(ア) 各教員の授業時間割の作成に際し、4時間の振替をとりやすいように、2週(A週+B週)に最低1箇所は勤務時間の前半か後半に寄せた4時間以上の空き時間帯を設定するよう配慮した。

(イ) 平日の管理当番の変形労働時間制の割振と併せて、年度当初に振替・割振を確定させた。確定後、個人別振替・割振一覧表を配布して各自の確認用とした。また、年度途中、随時変更希望を受け付け、その希望をもとに振替日を極力弾力的に修正した(現実にはかなりの変更があった。本校の教員がいかに毎日のニーズに実直に対応して勤務をしているかがうかがえる。振替を意識している職員もいるが、いない職員(忘れていた職員)も多い。権利としてとるべきことを意識化していくことも必要かもしれない。学校評議員からは強制的にでも休ませるシステムが必要だとの意見もうかがっている。)

(ウ) 振替・割振は、出張や休暇とともに毎日職員室中央のホワイト・ボードに記載し、振替・割振の該当者に、管理職から声かけを心がけているが、当日になって気付く職員も多い。

7 考察

本校に対する生徒や保護者の期待に応えるためには、質の高い授業の実施とともに、授業時間の確保が必要であり、この事業により一定数の土曜日を授業日とすることが可能となっていることの意味は大きい。さらに授業時間数の確保と連動して、土曜日に授業日を設定することで、平日を含めて、「授業・部活動・家庭学習」のバランスがとれた生活リズムを指導しやすい環境が保証されることも強調したい。本校の実行目標である「自主的に行動する生徒」を育成するために、平日の放課後や帰宅後の時間の確保が必要であり、その点もこの土曜授業と密接に関連していると言える。

また、土曜オープンスクール(公開授業)を多数実施することで、本校の授業を見学したい中学生、保護者等にとって、都合のよい期日を選択できたり、複数回参加できたりするメリットがあるので、本校を志望する中学生のモチベーションを高めることもできる。本校の教員及び生徒にとっても、程よい緊張感を持って授業に臨めるというプラス面もある。

8 その他

本年度、他高校の教員や中学校の教員の参観があった。土曜授業については、国も弾力化の方針を見せている。従来、本校の土曜授業は、開かれた学校づくりが目的の中心であった。平成26年度は、英語における外部人材の活用、地学における中学高校の教員を対象とした公開授業、工芸における体験的学習などを試行してみたい。